

(3) カワムツ・ヌマムツ (コイ目コイ科)

① 分布

流域の全集落

② 主に見られた場所

川, 水路

③ 採録した呼び名

- ・ 雌, 子, 総称 ハエ (下流域), ハヨ (又はハヨー) (上中流域)
- ・ 大型魚 イワモツ, モツ (又はムツ), ヤマ, ヤマバヨ, ヤマモツ (又はヤマムツ)
- ・ 婚姻色 アカタ, アカダ, アカテン, アカモツ (又はアカムツ), アカモチ, ヤマノアカ



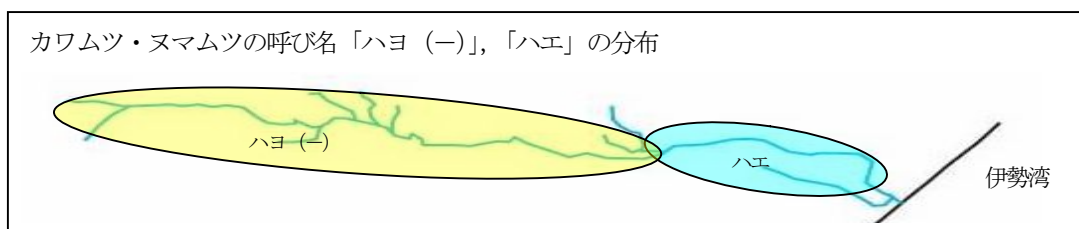
④ 分布と呼び名について

ほぼ流域全域の川の本支流や水路でよく見られたという。

雄が明確な婚姻色を持つ魚であるため、呼び名としては、雌、稚魚、総称としてのもののほか、婚姻色のものなど計17種採録した。

オイカワとともに上中流域では「ハヨ」又は「ハヨー」、下流域では「ハエ」と呼ばれ、またオイカワと区別し「モツ」又は「ムツ」と呼ぶ集落があった。大型魚となり特徴が出てくると生息場所や環境が呼び名に影響し、また赤い婚姻色が出るとそこから名付けられた「アカモツ (又はアカムツ)」といった呼び名が一般的となる傾向にあった。

流域では、婚姻色のものでは「アカモツ (又は「アカムツ))」が、それ以外では「ハヨ (又は「ハヨー)」という呼び名が最も多くの集落で採録された。



(3) -2 オイカワ (コイ目コイ科)

① 分布

最上流域の集落を除くほぼ全集落

② 主に見られた場所

川, 水路

③ 採録した呼び名

- ・ 雌, 子, 総称 ハエ (下流域), ハヨ (又はハヨー) (上中流域)
- ・ 大型魚 シラ, シラハエ (又はシロハエ), シラハヨ, ネギ
- ・ 婚姻色 アカタ, アカダ, アカモツ (又はアカムツ), シラノアカ, チアカ, ツヤカ, トンガリムツ, ネギソン



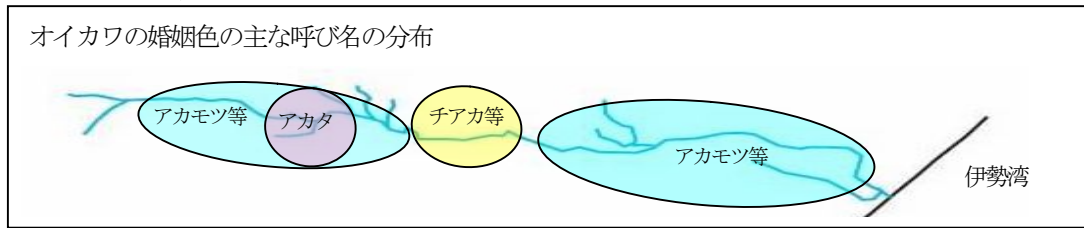
④ 分布と呼び名について

最上流域を除くほぼ流域全域の本支流や水路でよく見られたという。但し、婚姻色のものは本川でよく見られたという話が聞かれ、カワムツ類に比べ本川にいる傾向が強いようである。

雄が明確な婚姻色を持つ魚であるため、呼び名としては、雌、稚魚、総称としてのもののほか、婚姻色のものなど計17種採録した。

カワムツ・ヌマムツとともに上中流域では「ハヨ」又は「ハヨー」、下流域ではハエと呼ばれた。また、少し大きくなるとその白い体色から流域全体で「シラハエ」又は「シラハヨ」などと呼ばれるとともに、「シラ」、「ネギ」と呼ぶ集落もみられた。雄が成魚となり婚姻色が出ると、「アカモツ」

「チアカ」など集落により多様な呼び方がされていた。



(3) -3 アブラハヤ・タカハヤ (コイ目コイ科)

- ① 分布
はっきりとしない。
- ② 主に見られた場所
川, 湧水
- ③ 採録した呼び名
 - ・ 固有名 ヤナギバヨ, ヤナギモロコ
 - ・ その他 モロコ (タモロコとの混称)
- ④ 分布と呼び名について

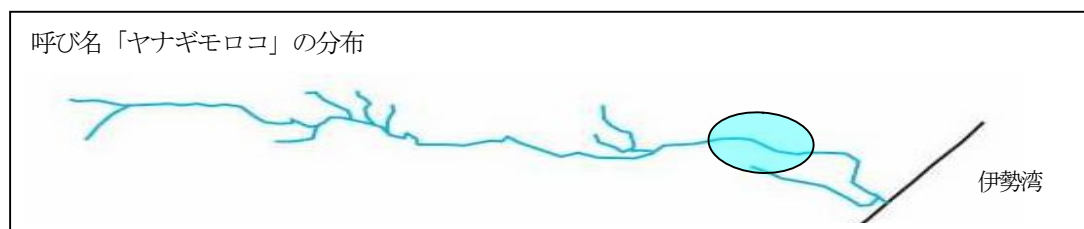


本来, 上流域や湧水といった比較的冷水域に生息する魚種であるが, はっきりとした生息情報があつたのは中下流域であり, かつての分布状況ははっきりとしない。

呼び名としては, 「ヤナギバヨ」, 「ヤナギモロコ」といった固有の呼び名とともに, タモロコとの混称である「モロコ」の計3種を採録した。

下流域の3集落で採録された「ヤナギモロコ」は, 鈴鹿川流域の集落での呼び名と同じであり, 最上流域の集落(関町久我)における呼び名である「ヤナギバヨ」は, 隣接する鈴鹿川流域の加太地区の影響と考えられる。

なお, 生息数が少ないため固有の呼び名がなく「モロコ」, 或いは「ハヨ」, 「ハエ」などと呼ばれていたものとも考えられる。



- ⑤ その他
現在は上流域で生息が確認されているが, 写真調査では昔の生息情報が得られなかったため, 最下流域を除く集落において実物確認を行った。
その結果, 最上流域の2集落では「昔はおらず, 1950年代以降見かけるようになった」という話があつた一方, 中下流域の一部の集落において生息情報が得られた。

(3) -4 ウグイ (コイ目コイ科)

- ① 分布
中下流域の集落
- ② 主に見られた場所
川
- ③ 採録した呼び名
 - ・ ウグイ



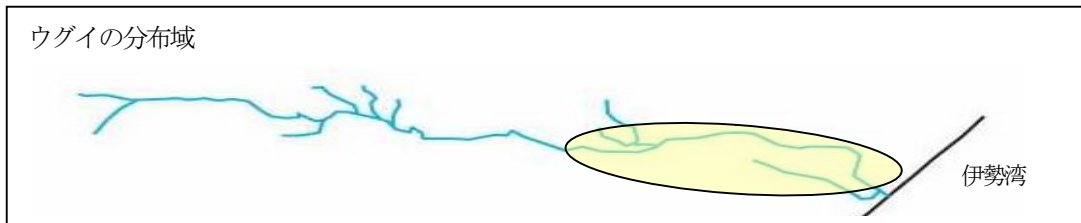
④ 分布と呼び名について

下流域を中心とした本川で見られたという。

呼び名としては、当時も標準和名である「ウグイ」と呼ばれていた。

生息情報があつた最も上流の集落は三宅町で、それもわずかであつたようであり、下流域も含め生息状況ははっきりとしなかつた。

生息数は多くはなく、かつ堰堤により遡上が妨げられたものと考えられる。



(3) -5 モツゴ (コイ目コイ科)

① 分布

最上流域と最下流域を除く全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池など

③ 採録した呼び名

- ・ 固有名 ウシモ, ウシモロコ, ミゾゴイ, ミトゴイ
- ・ その他 モロコ (タモロコとの混称)

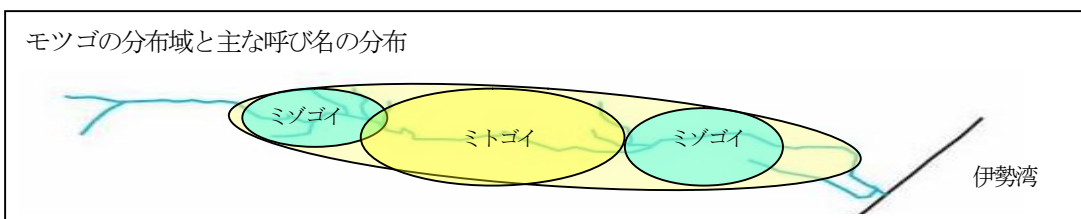


④ 分布と呼び名について

上流域から下流域にかけての川, 水路, 池などでよく見られたという。

呼び名としては、コイに似た形状, 細い溝川や水戸近くという生息場所からのもの, またタモロコとの混称を含め, 計5種採録した。

流域では「ミゾゴイ」又は「ミトゴイ」が多くの集落で採録されたのに対し, 下流域である旧河芸郡栄村や上野村の地域では固有の呼び名が採録されず, 生息状況もはっきりとしない。



⑤ その他

「ミゾゴイ」, 「ミトゴイ」は最下流域の集落ではニゴイの呼び名となっている。

(3) -6 カマツカ (コイ目コイ科)

① 分布

最下流域を除く全集落

② 主に見られた場所

川

③ 採録した呼び名

- ・ 砂にもぐる特徴 スナホリ, スナホレ,
スナムクリ (又はスナムグリ, スナモグリ), ホレ
- ・ その他 ゴンゾ, ジョボ, ジョボレン, ジョレン, シンゾ, スナハゼ, ゾボレ,
ハゼ, ホゼ, レイチョウ

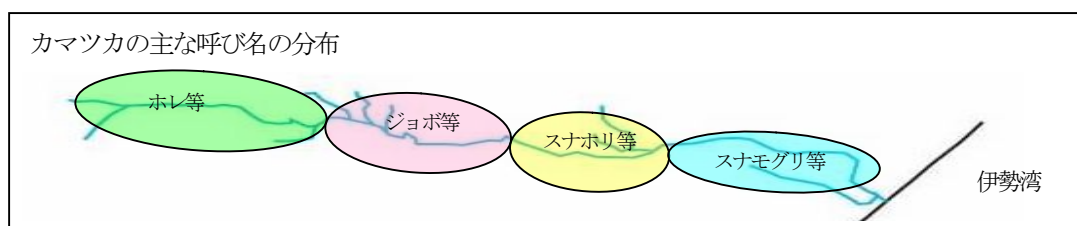


④ 分布と呼び名について

最上流域を除くほぼ流域全域の本支流でよく見られたという。

呼び名としては、汽水域などに生息するハゼに似た形態、川底の砂を掘り、もぐるという特徴から名付けられたものなど計16種採録した。

下流域から、旧栄村・天名村においては「スナモグリ」、旧合川村周辺においては「スナホリ」、旧昼生村・槇尾村にかけては「ジョボ」、上流域である旧明村では「ホレ」という呼び名が多くみられた。なお、「ホレ」は鈴鹿郡関町の集落でよく使われた呼び名で、上流域では鈴鹿川が近くを流れそこで本種が多く取れたことから、それが広まったものと考えられる。



⑤ その他

ハゼとの識別はヒゲの有無などでされていたようである。

(3) -7 コイ (コイ目コイ科)

① 分布

川においては、上流域から下流域の集落
池においては、全集落

② 主に見られた場所

川, 池

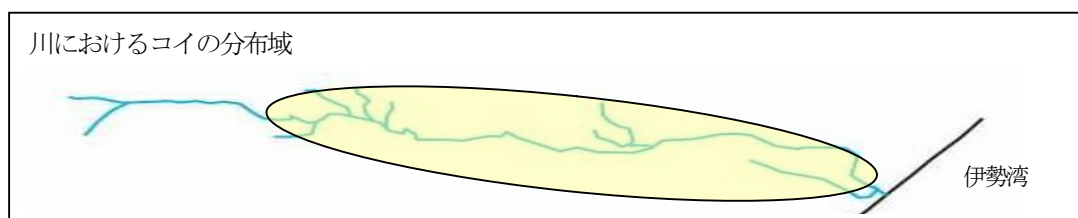
③ 採録した呼び名

- ・ 共通 コイ (全集落)
- ・ 錦鯉との区別 クロゴイ, マゴイ
- ・ 稚魚 コイゴ

④ 分布と呼び名について

川においては現在の芸濃町林付近から下流域にかけて、池では流域全域で見られたという。
呼び名としては、標準和名である「コイ」を全集落から採録するとともに、稚魚のものを含め、計4種採録した。

錦鯉との区別で「クロゴイ」や「マゴイ」とも呼ばれたようであるが、一般的ではなかったようである。なお、稚魚の呼び名として「コイゴ」が散発的に採録された。



⑤ その他

調査対象としなかった錦鯉は「ヒゴイ」、「イロゴイ」、「アカゴイ」と呼ばれたようであるが、1935年当時には川や池ではほとんど見られなかったという。

(3) -8 ニゴイ (コイ目コイ科)

① 分布

中下流域の集落

② 主に見られた場所

川

③ 採録した呼び名

- ・ コイ, ミゾゴイ, ミトゴイ

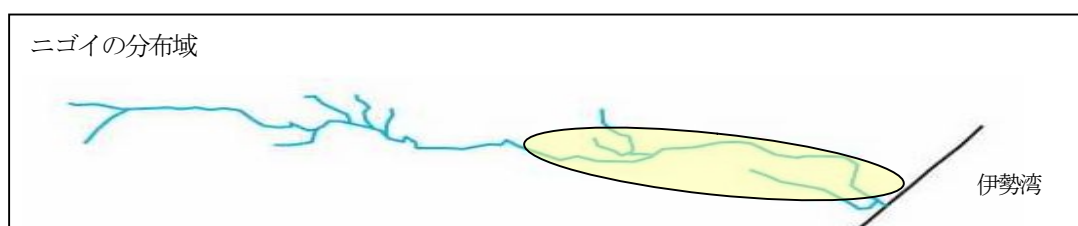
④ 分布と呼び名について

中流域から河口付近にかけての本川で見られたという。

呼び名としては、一般のコイとの混称を含め、計3種採録した。

最下流域では、通常のコイと区別し「ミゾゴイ」「ミトゴイ」と呼ばれた。

調査では、中流域の1集落で「コイの2割程度はニゴイであった」という具体的な話が聞かれた以外は、生息状況がはっきりとしない傾向にあり、生息数は多くなく、限られた場所に生息ポイントがあったものと考えられる。



⑤ その他

下流域で採録された「ヤナギゴイ」という呼び名もニゴイである可能性がある。

(3) -9 フナ (ギンプナ) (コイ目コイ科)

① 分布

全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池, 田

③ 採録した呼び名

- ・ 共通 フナ (全集落)
- ・ 稚魚 コブナ, フナコ, フナゴ
- ・ その他 ホンブナ

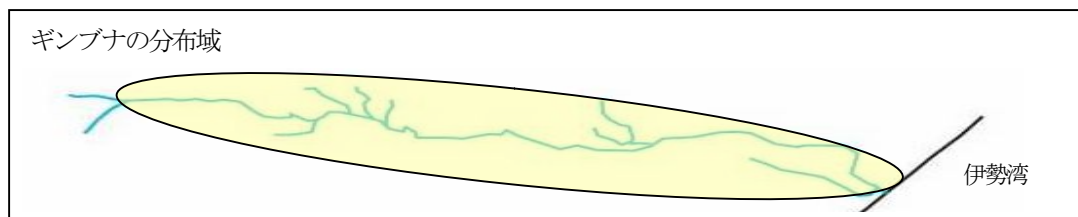


④ 分布と呼び名について

流域全域の川, 水路, 池のほか, 水田でも稚魚などが時期により多くの集落で見られたという。

呼び名としては, 現在の一般的な呼び名である「フナ」を全集落から採録したのをはじめ, 稚魚のものなど計5種採録した。

稚魚の呼び名である「フナコ」又は「フナゴ」もほぼ全域で使われたものであった。



(3) -10 タモロコ (コイ目コイ科)

① 分布

最上流域を除く全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池など

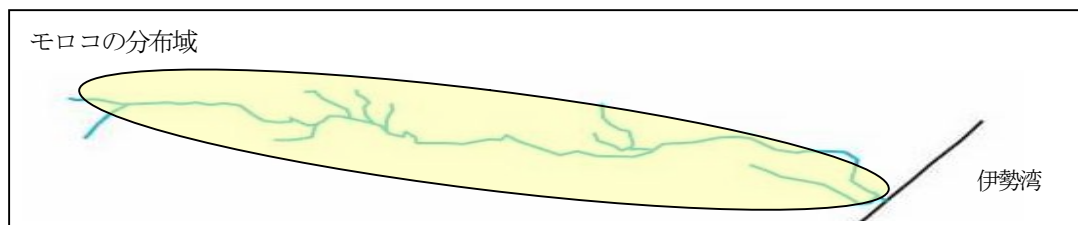
③ 採録した呼び名

- ・ 共通 モロコ (全集落)

④ 分布と呼び名について

ほぼ流域全域の川, 水路, 池などでよく見られたという。

最も一般的な魚のひとつで, 流域全体で「モロコ」と呼ばれていた。



(3) -11 カワバタモロコ (コイ目コイ科)

① 分布

上流域から下流域の集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池

③ 採録した呼び名

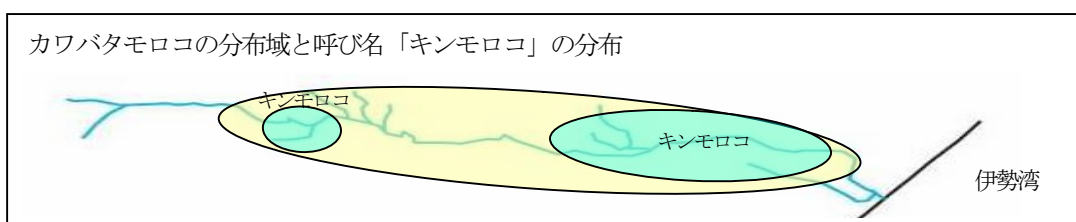
- ・ 体色 キンバエ, キンモロコ
- ・ その他 モロコ (タモロコとの混称)



④ 分布と呼び名について

上流域から下流域にかけての川, 水路, 池で見られた魚であるが, 生息情報が得られなかった集落もみられ, 生息数は多くなかったようである。

固有の呼び名としては, その特徴をなす金色の体色やモロコと似た体形から「キンモロコ」, また「キンバエ」の2種を採録した。一方, モロコに似た形態であることから単に「モロコ」と呼ばれていた集落も多くみられた。



⑤ その他

カワバタモロコは写真確認が難しいため, 「小型のモロコのように, 時期により体色は薄い金色となる」などと補足説明し, 周辺集落で採録した呼び名を使用し調査した。

(3) -12 ヤリタナゴ (コイ目コイ科)

① 分布

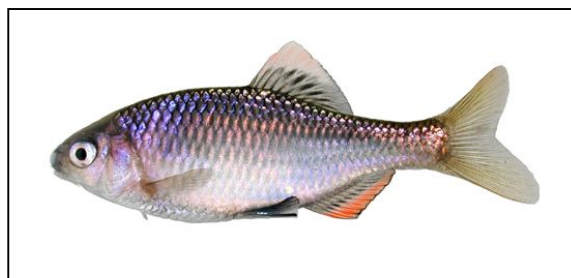
最上流域を除く全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池

③ 採録した呼び名

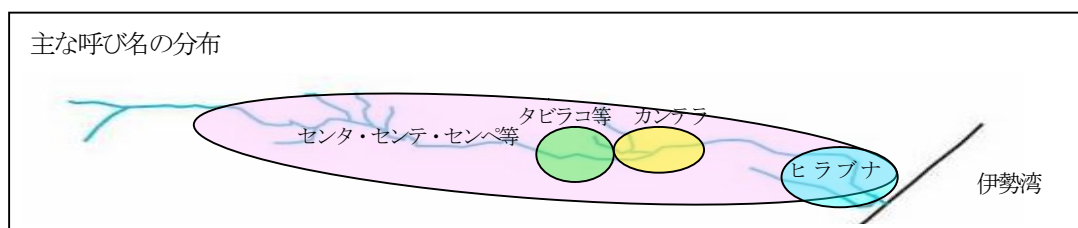
- ・ 婚姻色 カンテラ, ベンテンサン
- ・ 食味 タビラコ, タベラコ, ニガタ
- ・ 体形その他 サンペラ, センタ, センテ, センテラ, センテン, センペ, センペタ, センペラ, ヒラ, ヒラブナ, ヘラ, モロコ (タモロコとの混称)



④ 分布と呼び名について

最上流域を除く流域全域の川, 水路, 池でよく見られたという。

呼び名としては, 婚姻色, 食すると苦いこと, 薄いという体の特徴などから流域全体で多様な呼び名があり計17種採録した。



⑤ その他

現在では, 産卵場所として不可欠なドブガイが川や水路から姿を消したため, 本種の姿はほとんど見られないが, かつては中下流域で最も取れた魚のひとつだったという。

なお, ほかに「ニマイゼンタ」(五祝町木鎌で採録, 種類不明) やエラ近くにより黒い斑点があるものなど, 複数の種類のタナゴ類がいたことを示す話が数集落で聞かれた。